

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1	前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力については、表現力や論理的に説明する力を身につけさせる必要がある。校内研究のねらいを明確化し、『学び合い』の考えを取り入れた授業内容の工夫改善を図ることで、学力向上に生かせるような取組としたい。 学校が安心できる場であると生徒が感じられるよう、まず、生徒の自己肯定感を向上させ、開発的生徒指導を進めていきたい。
2	学校教育目標	<p>城南中生徒としての誇りをもちたくましく生きる生徒の育成 ～「城南魂を身につけ主体的に学び、人の気持ちのわかる人」の育成を目指して</p>
3	本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 『学び合い』の考え方を軸とした授業の実現を図る。 地域を愛し、地域に愛される生徒の育成をはかるため、城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化を図る。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教科部会や学年部会において、教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	「概ね達成」と答えた教職員が85%で、マイプランの達成を意識した取り組みができた。校内研修等を通じて「達成」と答える割合を高めた。	A	「概ね達成」と答えた教職員が91%で、マイプランの達成を意識した取り組みができた。12月の県調査の分析を通して更なる学力向上に取組みたい。	A	・学校だけの取り組みとならないように、家庭と連携して家庭学習の充実も同時に図ってほしい。また、小中学校で連携して学力向上に取り組んでほしい。	
	○『学び合い』の考え方を軸とした授業の実施	○県学習状況調査等において、正答率60%以上、無回答ゼロの生徒を80%以上とする。	・全教科で、『学び合い』の考え方を軸とした授業を実施する。 ・他教科や他クラスの良い面を取り入れ、活用するために合同授業を実施する。	B	『学び合い』の考え方を軸とした一人一研究授業を実施している。また、2回の学年ごとの授業研究会を行うことができた。12月調査の結果を受けて対応を検討したい。	B	・正答率60%以上は、2年生の国語のみ達成することができた。無回答ゼロの生徒80%以上は1・2年の全教科において達成できた。調査結果を各教科で分析し、生徒の強みと弱みを確認して指導法の改善に生かしていきたい。	B	『学び合い』の考え方を保護者や地域にも積極的に伝え、学校と家庭・地域が連携して学習環境づくりに取り組んでほしい。	吉岡大坪
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施	B	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は93%であった。道徳の授業を担任を含め学年職員全体で取り組んでおりより一層強化していきたい。	A	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒は90%であった。道徳教育推進教師を中心に、次年度の活動について職員全体で取り組みをより一層強化していきたい。	A	・小中学校で連携して地域を題材とした共通した教材を見つけて取り組んでみてよいものではないか。一人一人の生徒の良さを評価に反映させてほしい。	東島西村
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に5回以上行う。	B	・いじめ防止等について組織的対応が概ねできていると回答した教員が96%であった。事例を基にしたいじめの研修会をさらに充実させていきたい。	B	・いじめ防止等について組織的対応が概ねできていると回答した教員が100%であった。しかし、1年生でのいじめが多く中1ギャップへの対応が特に急務である。生徒アンケート、学活ノートなどを通して生徒の変化に早期に対応できる取り組みを学校全体で強化していきたい。	A	・SNSトラブルに対応できるように学校での指導に加え、家庭へも呼びかけをしてほしい。情報モラル教育に学校と家庭で連携して取り組んでほしい。	矢動丸立切
	○不登校の未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織対応	○月別報告書において、全校の不登校生徒の割合を5%以下にする。(前年度6.2%)	・定期的な教育相談アンケートやQUアンケート等を活用する。 ・専門性をもつ外部人材を活用した職員研修や生徒講話などを実施する。 ・SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を強める。	B	・9月までの全校の不登校生徒は12名で、割合は2.5%であった。しかし、30日未満の生徒が20名いることから、SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を強めていきたい。	A	・12月までの全校の不登校生徒は14名で、割合は2.9%であった。SCやSSW、サポート相談員や関係機関、地域との連携を深めて、不登校生徒0を目指す全職員で取り組んでいきたい。校内研修会をより一層強化し、専門性も高めていきたい。	A	・特別な支援が必要な生徒に対しては、学校だけで抱え込まずに関係機関との連携を強化して取り組んでほしい。	加茂山田三上
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の児童生徒80%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生徒会を中心とした健康づくり、体づくりへの取組の活性化 ・交通安全教室の実施と自転車点検の充実	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の生徒の割合は70%であった。新しい生徒会の体育委員会を中心に、健康づくり、体づくりへの取組を強化していきたい。	B	・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間以上420分以上の生徒の割合は62%であった。部活動を引退した3年生について、運動習慣についての取組の指導を徹底していきたい。また、生徒会の体育委員会を中心に、健康づくり、体づくりへの取組を強化していきたい。	B	・部活動を引退した後の3年生や運動部に入っていない生徒に対して、学校から運動するきっかけづくりを積極的に設けてほしい。地域のスポーツ団体との連携も考えてほしい。	山口山下陣川
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・月間平均時間外勤務時間数を月45時間以下とする。	・小中学校で連携した成績2期制の実施による、成績処理業務・通知表作成業務の削減 ・複数顧問による部活動指導の交代制の実施(部活動指導時間の縮減)	B	・4月から9月までの月間平均時間外勤務時間数は月31.7時間であった。後期は入試業務等があるため、業務の効率化により一層取り組んでいきたい。	B	・月間平均時間外勤務時間数は月31.7時間であった。しかし、時間外勤務が月45時間を超えている職員がいることから、業務の平準化や会議の精選を図るなど、取り組みをより一層強化していきたい。	B	・先生が元気でないと、生徒も元気が出ない。出席簿や通知表、指導要録の作成など、担任以外でも担当できる作業は、学校全体で取り組んで時間外勤務の縮減に取り組んでほしい。	教頭指導教諭魚永
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○文書処理の校務サーバーの利活用	○校務サーバーを使った文書データのやり取り、保存、整理をすることができたと答える職員を8割以上にする。	・職員間の文書データのやり取り、保存、整理を校務サーバーを通して行う。	A	・校務サーバーを使った文書データのやり取り、保存、整理をすることができたと答えた職員が96%であった。ICT機器の効果的に活用により一層取り組んでいきたい。	A	・校務サーバーを使った文書データのやり取り、保存、整理をすることができたと答えた職員が96%であった。しかし、「よくあてはまる」と回答した割合が56%であった。次年度は、校内研修を充実させるなど、さらなる周知に取り組んでいきたい。	A	生徒の個人情報漏洩が心配。そのためにも、必要なくなった個人データは速やかに削除するように徹底してほしい。	教頭主幹教諭指導教諭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	◎地域を愛し、地域に愛される生徒の育成 ・城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化 ・家庭や地域との連携、小中連携の取組の深まり	◎地域のニーズや要望をしっかりと踏まえ、地域と共生、協働をめざす。 ・学校行事、学年行事などへの保護者の参加率を60%以上にする。	・CS協議内容を十分に検討し、豊夢学園のプロジェクトを推進し小中連携の充実を図る。 ・学校行事の日程や内容を不断に見直し、保護者の「見てみたい」「参加したい」という意識の高揚につなげる。	B	・小中連携を推進と答えた教職員が65%であった。保護者の体育大会の参加は生徒162名(3年)に対して224名の参加、文化発表会と合唱コンクールへの参加は生徒(全学年)477名に対して164名であった。今後もより一層取り組みを強化していきたい。	A	・小中連携を推進と答えた教職員が83%であった。保護者の体育大会の参加は生徒162名(3年)に対して224名の参加、文化発表会と合唱コンクールへの参加は生徒(全学年)477名に対して164名であった。新型コロナウイルスの影響の中では健闘したほうだと思う。	A	・一部の委員や特定の生徒だけの活動とならないように、活動の意義を地域や生徒たちに十分伝えていくなど広報活動に努めてほしい。学校のキャッチフレーズを毎日の校内放送で流すなど、日頃の活動に組み込んでほしい。	

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 『学び合い』の考え方を軸とした授業の実現を図る。 地域を愛し、地域に愛される生徒の育成をはかるため、城南中学校運営協議会、城南豊夢学園運営協議会の活性化を図る。
----------------	---